

問1 江戸時代、仏教や儒教などの外来思想の影響を受ける前の、日本本来の考えや歴史を研究した学問を何という？

1. 朱子学 2. 国学 3. 陽明学 4. 蘭学

問2 1792年にロシアの使節ラクスマンによって送り届けられた、ロシアへ漂流した日本人は誰？

1. 大黒屋光太夫 2. 高田屋嘉兵衛 3. ラクスマン 4. レザノフ

問3 江戸時代後期に三十五年以上の歳月をかけて、古事記の注釈書を完成させた国学者は誰？

1. 荷田春満 2. 賀茂真淵 3. 本居宣長 4. 平田篤胤

問4 江戸時代に日本と朝鮮の間で定期的に行われた、外交や文化交流を目的とした使節団を何という？

1. 遣唐使 2. 勘合貿易 3. 遣隋使 4. 朝鮮通信使

問5 江戸幕府が、キリスト教の禁止や貿易の制限を目的に、長崎以外の出入りを厳しく制限した外交政策を何という？

1. 廃藩置県 2. 大政奉還 3. 鎖国 4. 版籍奉還

問6 19世紀、日本近海に頻繁に出没し、幕府が対外政策を厳しくするきっかけとなった外国はどこ？

1. イギリス 2. アメリカ 3. フランス 4. ロシア

問7 幕府がキリスト教の禁止と貿易統制のために進めた、外国との交流を制限する政策を何という？

1. 鎖国政策 2. 勘合貿易制度 3. 南蛮貿易統制 4. 長崎奉行設置

問8 ラクスマンが日本に求めた、外国との経済的な交流や取引を何という？

1. 通商 2. 密貿易 3. 朝貢 4. 互市

問9 享保の改革を行い、倭物の輸出を奨励して金銀の流出を防ごうとした将軍は誰？

1. 徳川家斉 2. 徳川吉宗 3. 徳川綱吉 4. 徳川家光

問10 東海道をはじめとする五街道の起点とされ、江戸の交通の中心地であった場所を何という？

1. 京都 2. 大坂 3. 日本橋 4. 名古屋

問11 水野忠邦が江戸幕府の権威回復を目指して行った、1840年代の幕政改革を何という？

1. 天保の改革 2. 寛政の改革 3. 享保の改革 4. 明治維新

問12 江戸時代、幕府が全国支配のために、諸国の支配者たちを統制する対象とした人々を何という？

1. 御家人 2. 浪人 3. 大名 4. 旗本

問13 大塩平八郎がかつて勤めていた、江戸時代の大坂において行政や裁判を担当していた役所を何という？

1. 京都所司代 2. 大坂町奉行所 3. 江戸北町奉行所 4. 勘定奉行所

問14 江戸時代、キリスト教の布教を制限する鎖国政策のもとで、長崎の出島で貿易が認められていた二つの国は、中国と何という国？

1. ポルトガル 2. オランダ 3. イギリス 4. スペイン

問15 江戸時代中期、幕府の財政再建を目指し、商人を積極的に保護・活用する政策を進めた老中の名前は？

1. 徳川吉宗 2. 松平定信 3. 水野忠邦 4. 田沼意次

答え合わせ・解説

問1	答え 2 国学	古事記や日本書紀、万葉集などの古典を丁寧に読み解き、日本独自の精神や歴史を究明しようとする学問を国学と呼びます。本居宣長がその代表的な人物として知られています。
問2	答え 1 大黒屋光太夫	大黒屋光太夫は伊勢の船乗りで、漂流の末にロシアへたどり着きました。ロシアで皇帝工カチエリーナ2世に謁見し、苦勞の末に帰国の許可を得て、使節ラクスマンに同行する形で1792年に根室へ帰還しました。その貴重な経験は、ロシアの状況を知る資料となりました。
問3	答え 3 本居宣長	本居宣長は、三重県の松阪を中心に活動し、三十五年以上の歳月をかけて『古事記伝』を著しました。彼は古事記を読み解くことで、日本人の心のあり方や古来の知恵を明らかにしようとしていました。
問4	答え 4 朝鮮通信使	朝鮮通信使は、数100人規模の行列で江戸へ向かい、儒教の教えや最新の文化・学問を日本に伝えました。日本側はこれを盛大に迎え、各地で筆談や学問交流が行われました。
問5	答え 3 鎖国	17世紀半ば、幕府は外国船の来航を長崎に限定し、日本人の海外渡航を禁止しました。これにより幕府は海外情報を独占し、貿易の利益を管理下に置きました。
問6	答え 4 ロシア	ロシアは、シベリア方面から南下し、北海道周辺や千島列島に頻りに船を派遣しました。日本との交易を求めてきたラクスマンやレザノフといった人物の来航は、幕府に大きな衝撃を与えました。
問7	答え 1 鎖国政策	幕府は日本人の海外渡航や帰国を禁止し、外国船の来航を制限する一連の政策を「鎖国」と呼びます。キリスト教を根絶するため、宗門改（しゅうもんあらため）などの制度を整備し、人々が寺院に所属していることを証明させました。
問8	答え 1 通商	1792年来航したラクスマンは、漂流民の返還を口実に、日本に対して通商、すなわち定期的な交易を行う関係を求めてきました。しかし、当時「寛政の改革」を行っていた老中の松平定信は、鎖国体制を維持するためにこれを明確に拒否しました。
問9	答え 2 徳川吉宗	徳川吉宗は「米将軍」とも呼ばれる享保の改革を主導し、財政の建て直しを図りました。彼は特に海外貿易の管理を強化し、金銀の流出を防ぐために、国内で産出された海産物（俵物）を輸出して海外の品物と引き換える政策を取りました。これにより、貿易収支の改善と国内産業の振興の両立を目指しました。
問10	答え 3 日本橋	「日本橋」は、東海道、中山道、日光道中、奥州道中、甲州道中の五街道が合流・出発する場所として、江戸幕府により道路網の基点に定められました。当時、周辺には魚河岸などが軒を連ね、物流の中心地としても繁栄しました。また、ここから発する街道を通して、将軍の代替わりごとに朝鮮通信使も江戸を目指しました。
問11	答え 1 天保の改革	老中首座となった水野忠邦は、財政再建を目指して改革に着手しました。厳しい俵約令を出して生活を制限したり、物価を抑えるために株仲間を解散させたりしました。また、江戸周辺の土地を直轄地にする「上知令」も出そうとしましたが、多くの反発を招きました。
問12	答え 3 大名	大名は、1万石以上の領地を持つ武士の呼称です。幕府は彼らを親藩・譜代・外様というグループに分け、配置を工夫することで互いに監視させたり、転封によって勢力を強めさせないようにしました。
問13	答え 2 大坂町奉行所	大坂町奉行所には、江戸から派遣された奉行が置かれ、町方の行政や治安維持、裁判を行っていました。大塩平八郎はこの役所で与力という中級役人を務めており、陽明学に精通し、高い正義感を持っていたことで知られています。
問14	答え 2 オランダ	しかし、全く閉鎖したわけではなく、中国とオランダだけは、長崎の出島でのみ貿易が許可されました。オランダはキリスト教の布教を行わないことを条件に貿易が認められ、西洋の医学や科学などの知識が「蘭学」として日本にもたらされることとなりました。
問15	答え 4 田沼意次	老中となった田沼意次は、従来の農本主義的な考えから転換し、商業による経済活性化を目指しました。商人に特権を与える代わりに税金を徴収する政策を進め、幕府の収入を安定させようとしていました。また、対外貿易も積極的に奨励しました。